



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 37 号 2015/4/14 発行）



<http://www.iima.or.jp/>



＼1. 理事長 行天豊雄 コラム／

期待から確信へ

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150414gyoten.pdf>

米国の金利引上げの見通しがまた不透明になってきた。ついこの間迄は 6 月確定という雰囲気だったが、ここへ来て余り良くないデータが出たりしたものだからやはり 9 月か…

＼2. 大久保勲 コラム／

2015 年の人民元対米ドル相場動向

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2015/20150414ohkubo.pdf>

2015 年の年間人民元対ドル平均為替相場の上昇幅はせいぜい 2%前後と見たい。変動幅拡大は、2015 年には、恐らく無いであろう。
人民元対米…

■ ホームページ 「IIMA の目」 ■

「IIMA の目」と題する短編コラムの掲載を、新たにホームページ最上部にて開始しました。原則毎週月曜日に更新いたします。国際金融・経済情勢等に関するホットな話題を是非ご覧ください。

<http://www.iima.or.jp/index.html>

1. 「中国の預金保険を考える」 五味佑子
2. 「長期金利の低下はなぜ経済の懸念材料か」 佐久間浩

■ IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新 ■

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

≪掲載内容≫

- IIMA Global Market Volatility Index
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

■ 今月の新着レポート

1. 「油価下落と中東不安定化に直面する湾岸諸国」 福田幸正
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_13_j.pdf>
油価下落により GCC 諸国は財政赤字が続く見通しだが、相当規模の SWF がバッファーとなっている。油価下落を契機に財政再建が模索されているが、対エジプト支援は急増。これは不安定化する中東情勢に対する GCC 諸国の危機感の表れ。
2. 「アジア債券市場の整備状況」 秋山文子
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_12_j.pdf>
東アジア地域の多くの債券市場は銀行貸出や株式市場と比べて依然として小規模であるが、2000 年代前半に本格化した域内協力の下、域内債券市場の成長・発展に向けて地道な取組みが続けられている。
3. 「英国における非伝統的金融政策と今後の課題」 井上裕介
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_11_j.pdf>
イングランド銀行は、2%のインフレ目標達成に必要な経済全体の支出を刺激するために、量的緩和やフォワードガイダンスなどの非伝統的な金融政策を導入している。当レポートでは、同行の金融政策の現状と今後の課題について検証する。
4. 「貧困層を抱える国における産業発展の考え方
～低所得・低位中所得国とアダム・スミスの経済発展観」 中村明
<http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_10_j.pdf>
一概に途上国といっても経済の発展水準は各国様々であり、経済開発を議論する際には、対象を明確にする必要がある。本稿では、低所得国および一部の低位中所得国を対象とし、産業発展のあり方を再考する。
5. 「本格化する中国のシルクロード経済圏構想
～シルクロード基金の運営開始～」 五味佑子
<http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2015/269_j.pdf>

中国が設立を表明していた「シルクロード基金」について、2014年12月に北京で設立されていたことが、中国人民銀行のプレスリリースによって明らかになった。本稿では、シルクロード基金及びその設立の背景にある中国の「シルクロード経済圏」構想（中国語で「一帯一路」）や、アジアインフラ投資銀行（AIIB）との関係について紹介する。

6. 「長く深くなるブラジルの不況 ～金融市場の波乱材料になる懸念も～」 森川央

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2015/NL2015No_9_j.pdf

2015年のブラジル経済はマイナス成長になる見込み。焦点は景気後退の有無ではなく、景気後退の規模（深さ、長さ）に移っている。

7. 「急増するGCC諸国の対エジプト援助」 福田幸正

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2015/268_j.pdf

GCC諸国の対エジプト援助は、2013年には日本のODA総額に匹敵する113億ドルを実行。油価下落にもかかわらず当面毎年同レベルの援助が提供される見通し。これはGCC諸国の危機感の表れ。

■ 今月のIIMA

先月末、昨年秋にJICAの研修プログラムで東京に来たASEANインドシナ4か国の研修生を訪問しました。研修生といっても、みなさん、各国の証券委員会や中銀の幹部候補生です。それぞれの国で、債券市場作りの重要なポストで働いている様子に触れることができました。現地を訪問して初めて分かったのは、債券市場を取り囲む環境の現実の姿です。「まだ銀行システム自体が盤石ではない」とか「法的枠組みがまだ出来上がってない」などと、日本にいながら表面的には分かっているはずの事柄も、現地に行くと、その意味の大きさがよくわかります。こうした現実を全く想像せずに教科書的な話をしただけではなかったかとの反省も生まれます。次回の研修の改善に是非つなげていきたいと思います。

とはいえ、東京で迎えた人と現地で再開し「やあやあその後どうだい」と言葉を交わすのは、お互い素直にうれしいものです。国をまたがる関係においては、個人的な関係が信頼の第一歩であり大切にしていきたいと思います。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2015年5月12日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

◇発行◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.